

新年のごあいさつ（平成30年正月）

協同組合広島県鉄構工業会 理事長 山本泰徳

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、希望と活力に溢れる新年を迎えられたと思います。

さて、去年は、年間を通じて仕事量が確保される中で、図面の遅れへの対処など工程管理に悩まされることも多く、忙しく明け暮れた年であったと思います。

こうした中で組合は、我々F A Bの業務活性化と地位向上に向けて着実に歩みを進めたと思います。

1つは、行政との接点を拡大し、我々F A Bの存在を更に強く印象付けたことです。

昨年5月26日、当組合の総会に、初めて湯崎広島県知事に御出席いただきました。

専門工事業者の会合に広島県のトップが親しく出席されるのは、極めて異例なことです。行政を交えた研修会の開催など、これまで努力を積み重ねた結果、F A Bに対する認識、評価が高まっている証だと確信し、大変嬉しく思います。

また、来たる平成30年新年互礼会には、今や恒例となった広島県の宮崎建築技術部長と的場営繕課長が来賓出席されます。

広島県の営繕関係者をお迎えして開催する新年互礼会に、組合員全員が参加していただきたいと思います。

2つ目は、F A Bの内外において、改善・改革とそれを応援する動きの高まりを実感しました。

4月に開催された経営力向上研修会では、F A B現役経営者によるF A Bの経営力向上と業界の発展のため、そしてこれからの具体的な取組みについて、情熱を込めて語られ、私も感銘を受けました。

こうした人材は、今、全国各地に相当数存在し、リーダーとして活発に改善・改革を推進しつつあります。

また、11月に開催した千葉工大橋本名誉教授の特別講演会でも、これまでのF A Bを見守り育ててきた立場から、「単なる専門工事業に甘んじず、自らの技術・ノウハウにもっと誇りを持って上を目指せ！」と、厳しくも暖かい激励の言葉を頂きました。

私も、内に多くの良きリーダー、外に良き理解者・応援者を得た今この時期を逃さず、F A Bの将来を見据えた改善・改革になお一層取組みます。

3つ目は、共済事業の拡充・充実です。

共済事業に関しましては、メーカー、販売店、組合員の3社が一体となった取り組みが事業を拡大、活発化させるものだと思います。

そうした思いから、私は指定塗料の販売店に対し、拡販への努力を機会あるごとに要請してきました。これに応じて、販売店も真剣に取り組み、かなり成果も出てきています。

さらに、私も運営委員会の一員として努力した結果、新しく保険料の安い「F A B向け新損害保険」も検討されております。

今後も引続き、組合員がメリットを享受でき、同時に組合財政を豊かにする共済事業の拡充を図っていきたいと思います。

4つ目は、青年部の活動の成果です。

青年部が、構成員に若手技術者、技能者を加えてリニューアルし

て2年半が経過しました。

この間に、大学・建築学会関係者を交えた勉強会をはじめとした技術や経営研修の実績を積み重ね、会員数も31名に増加しました。

また、青年部を中心にF A Bの若手十数名が参加・活動する鉄骨製作部会が、29年度の日本建築学会中国支部の建築文化賞にノミネートされています。

受賞すれば全国的にも史上初の快挙で、日頃の努力の結果が実を結び、F A Bの社会的認知度を更に引き上げることとなるので、期待を込めて吉報を待ち望んでいます。

今年は、4月21日に青年部の全国大会が広島で開催されます。

大会の成功に向け、青年部を中心に、組合一丸となって努力しましょう。

今年を展望する上で、キーとなる言葉は「将来を見据えた対策」だと思います。

皆さんの仕事量は、ここ数年概ね確保され、利益も出ていると思います。

鉄骨の需要は、あと数年、2023年度まで500万トン台の高水準で推移すると見込まれる一方、首都圏一極集中が進むことは確実で、地元広島が地域間格差の波を被る危険性は否定できません。

また、業界共通の課題である人材確保のために、働き方改革をしっかりと推し進める必要がありますが、それには十分な資金力が必要なことは言うまでもありません。

ある程度余裕のある今、目先から視線を上げて将来を見据え、自

社が5年後、10年後に事業を継続・発展させていくための課題と対策について、経営者として真剣に考えるとともに、今出来ることから着々と手を打っていただきたいと思います。

一方、鋼材の値上がりが連続して止まるどころを知らず、また、需要の拡大に生産が追い付かず、需給のひっ迫も続いております。

今後の見積では、こうした鋼材の値上げ等を十分に織り込んで、利益のある受注を継続されるようお願いいたします。

最後になりましたが、安全は何物にも代えがたいものです。

どんなに小さな怪我でも、従業員の生活と鉄骨の製作工程への影響は決して小さくありません。日常的な事故防止・安全確保の努力、対策こそ、最も有効な作業効率の向上対策と考えて日々励行していただきたいと思います。

人命と財産を守る鉄骨の社会的使命は永久不変です。平成30年が、私たちが誇りを持ってその社会的使命を健全な形で全うできる年になることを確信しております。また、組合員の皆さまにとりまして良い年になるよう、心から祈念申し上げます。